

○ルールの概要

- ・八八花を使用し、それぞれ1枚につき光札は20点、タネ札は10点、短冊札は5点、カス札は1点とする。
- ・三人固定の競技とするため、出降りに関する取り決め（降り賃や追い込み賃、見ず出等）は存在しない。
- ・一勝負1年とし、1年は12ヶ月とする。1年勝負の勝利者は第2位より10点、第3位より70点、計80点の吟味（ウマ）を得る。第1位が2人の場合は第3位が35点ずつ払い、第2位が2人の場合は第1位に40点ずつ払う。
- ・最初の場所決めは、任意の順番で札を引き、若い月の札を引いたものから胴→胴二→ビキ（右回り）となる。同じ月の札だった場合は、その者同士でもう一度引きなおす。
- ・場札にシマがある（同月札が4枚出た）場合は、胴（親）の取り札になる。
- ・2月以降の胴（親）は、前月の得点が一番高い競技者とする。
- ・六カス、七カスが来ていたとしても、必ずしも公開して役代を得る義務はない。
- ・手四及び月三手ができていた場合は、公開し同月の配札のやり直しをする。公開は任意とする。
- ・六カス、七カスの公開札は場札とはしない。また、雨札はカス札扱いできない。
- ・出来役「六短」「七短」には柳（雨札、11月）の短冊札を含めることができる。
- ・盃役に雨流れ・日の出は採用しない。雨シマ流しは採用しない。親手はもらえない。
- ・ふけ役を採用する。取り札の点数の合計が30点以下の場合（ビキも同条件）、無勝負となる。月は進む。
- ・親仲八丁ビキ十丁はオプション役として、競技前に採用するかどうか決める。

○手役(dealt hands) ※英名は参考程度です。

No	役名	英名・確率	役代	解説	配札時例
1	ろっかす 六カス	six dregs 4.387267% 1/22.7932	20点	カス札6枚が有る場合。残りの1枚以外を公開する。	
2	しちかす 七カス	all dregs 0.470064% 1/212.737	40点	全てカス札の場合。全ての札を公開する。	
3	てし 手四	four 0.215850% 1/463.286	--点	同月札が4枚ある場合。全ての札を公開し、配札をやり直す。	
4	つきさんて 月三手	three sorts 0.186448% 1/536.342	--点	3種の札種しかない場合。全ての札を公開し、配札をやり直す。	

※公開札を場札扱いにするルールがあるが、採用しない。

※11月札（柳、雨札）は、カス札以外をカス札として扱うことができない。

※手四、月三手は麻雀の九種九牌に相当する。月三手は、はちはちでいう二三本とはねけんが該当する。

○出来役(captured hands) ※英名は参考程度です。

No	役名	英名	役代	必要な札・備考
1	ごこう 五光	five lights	160点	(雨四光, 四光とは複合しない)
2	しこう 四光	four lights	80点	(五光とは複合しない)
3	おおとり 大鳥	all birds	80点	鳥がいる札を全て集める
4	ごうん 五雲	clouds	60点	雲がある札を全て集める

No	役名	英名	役代	必要な札・備考
5	ななたん (しちたん) 七短	seven slips	40点	 (例) 六短と複合しない
6	あかたん 赤短	red slips	40点	
7	あおたん 青短	blue slips	40点	
8	あめしこう 雨四光	rainy four lights	30点	 四光のどれかが  になる場合
9	いのしかちよう 猪鹿蝶	boar-deer-butterflies	30点	
10	のみ	drinking	30点	 (月見ののみと花見ののみとは複合しない)
11	ことり 小鳥	four birds	30点	 (大鳥とは複合しない)
12	ろくたん 六短	six slips	20点	 (例)
13	おもてすがわら 表菅原	elegant spring	20点	
14	くさ	grass	20点	
15	まつきりぼうず 松桐坊主	crane-phoenix-moon	10点	 (五光, 四光, 雨四光とは複合しない)
16	はなみ 花見ののみ	flower viewing	10点	 (月見ののみと複合すると「のみ」となる)
17	つきみ 月見ののみ	moon viewing	10点	 (花見ののみと複合すると「のみ」となる)
18	ふじ 藤シマ	wisteria row	10点	
19	あめ 雨シマ	willow row	10点	
20	きり 桐シマ	paulownia row	10点	
21	カス	dregs	10点 1枚増10点	カス札を12枚以上集めた場合。13枚目から10点ずつ役代が増える。カス以外の雨札は含まない。
22	ふけ	no count hand	特殊役	手札を打ち終えて、取り札の合計点数が30点以下だった場合その月は強制的に全員±0点になる。
OP 23	おやなかはつちよう びきじつちよう 親仲八丁ビキ十丁	few captured cards	30点	手札を打ち終えて、取り札の枚数が胴(親)と胴二(仲)で8枚以下、ビキで10枚以下だった場合。【採用時のみ】

※手役と出来役に示している役代は、他の2人の競技者からそれぞれ受け取る点数である。

○競技全体の流れ

(1) 用意するもの

1. 花札（黒と赤を交互に使うと本格的）
2. 座布団などの競技場所。広めでないと公開した手役の札が他と混ざる可能性がある。

(2) 1年の開始

1. 前年勝者、年長者、一番遅れてきた人など任意に決めた人が札を切り、各競技者が1枚ずつ任意の札を引く。札の月数の一番若い人から1月の胴（親）、胴二、ビキとなる。また、同じ月の札があった場合は、その競技者同士でもう一回引きなおす。
2. 胴（親）になった競技者は、任意の場所に座り、そこから右回りで胴二、ビキになった競技者が座る。

(3) 配札

1. ビキが札を切り、胴二がのぞみを入れ、胴（親）が札を配る。
2. 配札方法は胴二→ビキ→自分の順番に裏返しで4枚ずつ、場札に3枚表向き、胴二→ビキ→自分の順番に裏返しで3枚ずつ、場札に3枚表向きに配る（手七場六）。競技者への配札は最初に3枚、後で4枚でも良い。
3. もし、場札に同月札が4枚あった場合は、全て胴（親）の取り札となる。

(4) 手役の発表

1. 配札が終わったら、各自手札を見て、六カス又は七カスがあればルールに従い公開をする。公開した札はその月の競技中は公開したまま（場に置かれたまま）なので、他の札と混ざらないように注意する。
2. 手札に手四若しくは月三手があればルールに従い公開し、その月の配札からやり直す。
3. 手役の役代の授受はその月の最後に行う。

(5) 本競技

1. 手役の発表が終わったら、胴（親）から順番に手札を打ち、山札をめくる。取った札は、点数ごとに並べて他の競技者に分かるようにする。
2. 手札を打ち終わって、ふけ役を完成した競技者があれば、当月を無勝負とし翌月の競技に入る。翌月の胴（親）はふけ役を完成した競技者となる。2人の完成者がいた場合は、ビキに近いほうを胴（親）とする。
3. ふけ役完成者がいなければ、各競技者の完成した出来役の役代の授受を行う。自分の取り札で役代を授受する。六カスと七カスの役代の授受もこの時行う。
4. 各自の取り札の合計点を算出し、基準点の88点からの浮き沈みの点数を記入する。

(6) 翌月へ

1. 得点が一番高い競技者が次回の胴（親）となる。取り札の合計点が同点だった場合は、その月の胴、胴二の優先順で胴になる。
2. 翌月の胴（親）が決定するので、自動的にその右隣が胴二、さらにその右がビキとなる。

(7) 1年の終了

1. 最後の月が終了したら、合計点を算出する。
2. 第2位の競技者はトップに10点支払う。第3位の競技者はトップに70点支払う。トップは80点を得る。
3. トップが同点だった場合、第3位の競技者がトップの2人にそれぞれ35点払う。
4. 第2位の競技者が同点だった場合、その2人がトップに40点払う。
5. 全ての競技者が同点だった場合は、その年は全ての競技者を引き分けとする。

○ルールの補足説明

(1) ふけ役について

1. ふけ役は、六カスや七カス、出来役ができていても成立する。ふけ役の辞退はできない。
2. 雨札も得点に数え、30点以下で成立する。ビキも同条件である。

(2) 手四と月三手について

1. 稀ではあるが手四や月三手が六カスや七カスと複合する場合がある。この場合、競技者がどちらか役を選択する。手四と月三手も複合するが、どちらを選択しても同じである。

(3) 親仲八丁ビキ十丁について

1. 親仲八丁ビキ十丁は単に30点の出来役である。ふけ役のように無勝負になったり相手の出来役が流れたりはしない。

○ルールの考察

(1) 手役と出来役について

手役について、文献によれば基本は六カスと七カスであるが、手四のような悪手が入った場合は悲惨なので救済措置として、配札のやり直しができることとした。

六カスと七カスの公開札を場札にすると、結構悲劇的なことになり、公開しないほうがいい場合もありそうなので不採用とした。

出来役は可能な限り採用した。シマの存在はこの競技独特である。また、2枚役（のみとシマ）はすべて10点とした。

カス役の採用であるが、北の大地で育った人間には無いと寂しいものである。

六短七短に雨の短冊も含むことができるのは、本ルール独特と思われる。北の大地では雨札が短冊札に化けることができるルールが多かったため、本来の短冊ぐらいいは入れることとした。

(2) のぞみについて

のぞみとは、ビキが切った札を胴二が任意に二分し上下を入れ替えることであるが、ここでは胴二は二分した上部をそのまま山札として置き、残った札を配る方法を用いても良いこととする。

これは、札を48枚全部持って配るのがやりづらいということであるが、実際のところ両手を使って札を配るというのは不正行為の可能性を増やすため禁止しているところもある。

○得点記入例

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	小計	吟味	合計
A	-18	-92	+28	-25	-93	-27	+138	-47	+43	+74		+87	+68	-10	+58
B	-56	+74	+2	-13	+21	+33	-98	+2	0	-55	ふけ	-74	-164	-70	-234
C	+74	+18	-30	+38	+72	-6	-40	+45	-43	-19		-13	+96	+80	+176

○札の構成と点数

十二月	十一月	十月	九月	八月	七月	六月	五月	四月	三月	二月	一月
20点	20点	10点	10点	20点	10点	10点	10点	10点	20点	10点	20点
1点	10点	5点	5点	10点	5点	5点	5点	5点	5点	5点	5点
1点	5点	1点	1点	1点	1点	1点	1点	1点	1点	1点	1点
1点	1点	1点	1点	1点	1点	1点	1点	1点	1点	1点	1点
桐	柳 (雨)	紅葉	菊	芒 (坊主)	菽	牡丹	菖蒲	藤	桜	梅	松
paulownia	willow	maple	chrysanthemum	pampas	clover (hagi)	peony	iris	wisteria	cherry (sakura)	ume (J.apricot)	pine

花札のフォントについては、たく氏のHanafudasymbolを有り難く使用させて頂いています。

(<https://www.vector.co.jp/soft/data/writing/se214661.html>)